



## 授業を楽しむ、だからそのために。

沖縄県中学校職員 波照間 千夏

中学校で国語を教えている。

単元前半はいろんな短歌に出会ってもらって鑑賞文を書き、読み合うインプットで心を耕した。14歳のまっすぐな歌の解釈は雑多な大人の心を浄化していくようで授業に行くたびに私が励まされた。後半はアウトプット(創作)。お題をささっと決めた生徒たちは指折り数えながら歌を作っている、ああなんて素敵な風景だろうと思いつつ机間支援。お題が決まらない勉強苦手なやんちゃくんたち、見事に脱線中。一人ずつ、つかまえに行く。

しばらく学校スリッパを履いて散々先生方に小言を言われていたAさん、足元にはまっさらのシューズ。おやっと思ひ、これをお題にしたらいいじゃん、と声をかけると「そんなことでいいの?」もちろんよ! そのわずか5分後、私の袖を引っ張る彼はニコニコ。

〈入荷待ちしてたうわばきやるときた

これでスリッパ卒業できる〉

入荷待ち! ちゃんと注文して準備中だったのね! 初めて彼の事情を知る。言えればいいのに。卒業という言葉もすごく効果的! ビッグリアクションと笑顔で歌を受け取る。

他にもやんちゃくんたちは奇跡を連発する。

〈友だちと水をかけ合い怒られる

だけど楽しいとても楽しい〉

二度繰り返される「楽しい」が本当に楽しいね、こっちもワクワクしちゃうよ!

〈やるときた解放感がたまらない

学校、勉強、嫌いな先生〉

明日からGW、というこの日、なんて素直な歌! 全然いいのよとってもわかる! 笑い飛ばす。

〈先輩が理不尽すぎて嫌われる

帰り道では悪口祭り〉

後に絶大な支持を集めたこの一首は後輩ならではの日常を見事に表現している、来年は君たちが言われちゃうのかしら?? 周りも「それはイヤー!」呟いて笑う。

〈反抗期親と言ひ合いエブリデイ

仲直りしたお弁当の日〉

お弁当にはやっぱり愛を感じる魔法がある。“エブリデイ”、文字としても声にしてもとてもかわいらしい。保護者にも届けたくなくなってしまふ一首だ。

よく怒られている彼らのありのままの気持ち、生活が歌ににじむ。「こんなこと書いていいのかな」彼らなりの妙な遠慮、心配、そんなものはいらぬ。素直に書いてくれたことを肯定し続けることで、授業に居場所を感じてもらえたら嬉しい。いつもそういう思いで授業に臨んでいる。

この「明るく笑い飛ばす」ためには準備と心のゆとりが必要だ。毎度、学習課題に真っ直ぐ取り組めないやんちゃ君たちの姿と気持ちを想像しながら手立てを考える。ガラガラしててもおしゃべりしてても、鋭い言葉を向けたりピリつかせてなるものか、ニコッと視線を送って「さあどうしようか!」と声をかける、心身疲弊しては決してできない。授業は本当に楽しい、楽しくしたい、だからそのために、私たち教員が心身を健やかに保つことはとても大切だ。本業である授業と生徒支援以外のことを積極的に手放すことで、生徒も自分も、大切にできる働き方を模索している。どんな生徒にも向き合える自分でいたい。